

## 平成25年度 第1回庄内町行政改革推進委員会 会議録

- 1 開催日時 平成25年9月25日(水) 18時30分～21時00分
- 2 開催場所 庄内町役場 第二会議室
- 3 出席委員 大瀧国夫、小林義廣、齋藤ゆう子、佐藤正義、志田重一、高梨美代子、和田明子、渡邊和能
- 4 欠席委員 岡部一宏、清野美子
- 5 説明員 佐藤主幹(保健福祉課)、菅原課長、石川補佐(農林課)、小林主査(商工観光課)、本間課長、石川補佐、佐々木主査(社会教育課)
- 6 事務局 情報発信課長 企画係長、清野主任、佐々木主事

---

### 1 開 会 (18:30)

#### 2 委員長あいさつ

一日の仕事の後で皆様大変お疲れ様です。この外部評価は、事務事業評価に基づく評価となります。皆様から委員会の意義を汲み取ってご理解いただいたうえで、効率良く進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

#### 3 確認事項等

資料1～5の確認及び本日の日程について(事務局)

#### 4 説明

(1) 平成25年度事務事業評価の外部評価について(事務局)

【委員長】 これまでの事務局の説明について質問等ございませんか。

【委員】 資料5に記載のある歴史民俗資料館運営の「統合までの期間」とはどのような意味か。

【事務局】 庄内町には、狩川地区にある「歴史民俗資料館」と第四公民館に併設されている「亀ノ尾の里資料館」の二つの歴史民俗に関する資料館がある。担当課としては、歴史民俗資料館を休館したい意向があったが、外部評価で、一度休館したものは再度開館することは難しいので手法を見直して継続するように意見をいただいた。これを受けて、現在は7、8月のみ限定的に開館している状況である。また各々の収蔵品を旧狩川小学校、十六合公民館に保蔵している状況もあり、収蔵場所も含めて将来的な方向性を検討しているということである。

#### 5 協 議

(1) 平成25年度事務事業評価の外部評価(所管課ヒアリング)

##### ① 大中島保育園管理事業(保健福祉課)

【委員長】 これより協議に入りますが、委員の皆様からは、事務事業評価シートからは読み取れないところなど質問していただいて補強していただくなどして審議していただきたい。皆様の

意見を委員会としての意見書に盛り込んでいきたい。観点として難しいところもあるでしょうが、町民として見た場合に疑問に思ったところを出していただくなど、皆様の地域での経験等を含めて様々なご意見をいただきたい。では、大中島保育園管理事業について説明願いたい。

- 【説明員】 今年度で立谷沢保育園が廃止になることから、休園状態の大中島保育園も同時に閉園して廃止の手続きを進めたいと考えている。入所児童の減少により9年間の運営で平成10年度を以って休所した。設立の際に補助金が入っており、10年間運営しないと補助金返還が生じることもあり休所とした経緯がある。現状で廃止とした場合に補助金返還の有無を県に照会して、結果を待っている状況である。地域からも撤去してほしいという意向である。補助金返還なければ、来年度予算に撤去費用を計上して廃止したいと考えている。
- 【委員長】 第二次評価結果に記載のある現状の課題とは補助金のことか。また立谷沢保育園には補助金は入っていないのか。
- 【事務局】 課題とは補助金のことである。立谷沢保育園は、昭和40年代に克雪管理センターの一部を活用して設立された。
- 【委員長】 なぜ地元では撤去してほしいという意向なのか。
- 【説明員】 安全確保の面からも雪下ろしの作業をしなくても良いようにするためである。
- 【委員】 雪下ろしについては、隣接する「森森」の駐車場確保も必要であることから、雪下ろししなければ何かあっても困る。国、県の補助金返還の有無や金額がはっきりしないと難しいところがあるが、毎年の維持管理や手間を考慮すると早めに撤去した方が良い。
- 【委員】 耐久年数過ぎても残存価格はあるのではないのか。補助金返還もあるのではないのか。
- 【委員長】 他への転用などはないのか。
- 【委員】 使えるには使えるが、現に「森森」も空いているし、使うとなれば手入れをしなければならない。
- 【委員】 「森森」には風呂がないので、北月山荘まで20分位かかって風呂に入りきても帰りにまた汗をかく状況である。「森森」にシャワーだけでもあれば良いと思っていた。大中島保育園は転用できないものかと思っていたので、転用できるのであれば良いと思う。
- 【委員】 企業の考えからすれば、「森森」の下も空いているので経費を抑えて設備を整えられる。保育園を活用となると、電気を引いて、耐震化のことも考慮してとなると難しい。地元でも保育園を使い勝手良いとは思っておらず、むしろ「森森」を活用していけば良いと思う。県の回答ができるだけ早く来ることを待って、実行すべきだと思う。つけ火などあっても困る。火災保険には入っているのか。
- 【説明員】 町の財産なので保険には加入している。
- 【委員長】 補助金返還をしなくて良い方法があればと思うが、廃止の申請を提出すれば比較的容易に認められるのではないのか。休所から廃止となって撤去する場合、莫大な費用はかからないのか。
- 【委員】 使用していない建物なので安全確保の面から危ない。撤去が遅くなればなるほど経費はかかるので1年でも早く撤去した方が良い。
- 【委員】 今後、使用する見込みがないのであれば、早く撤去できるよう交渉してもらおう。いずれにしても撤去費用はかかるので、いつの時点で撤去するのか早く見切りをつけた方が良い。地元の意見が一番大事であるので、まとめたうえで結論を出してほしい。
- 【委員長】 方向性としては、第二次評価でも課題としている補助金のことを解決して、休所から廃止というのは妥当だと思う。残る施設の解体、撤去を速やかに行うことができるようにしていただきたい。

## ② 淡水魚養殖施設指定管理事業（農林課）

### 北月山荘管理事業（商工観光課）

- 【事務局】 事務事業評価シートに基づき対象事業説明
- 【説明員】 平成 20 年 7 月 1 日から指定管理者制度を導入し、現在は第 2 期目（平成 23 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで）である。施設の運営として養殖用水と農業用水の取入口が同じなので双方のバランスをみて一体的な管理が必要である。
- 【説明員】 北月山荘で食事提供している「やまぶどう」にイワナを搬入している。年間の仕入れ代金は約 55 万円である。北月山自然景観交流施設は、北月山荘の他にロッジ、ケビン、キャンプ場も含まれ、指定管理者制度の導入に向けて検討されている。将来的には、周辺施設の「森森」「南部山村広場」も含めた運営が検討課題となっている。養殖場に対する課としての考えは、現時点でまとまっていないので今後検討して行く。
- 【委員】 北月山荘で提供されるイワナは観光パンフレットにも掲載され、北月山荘の名物の 1 つとなっているが、11 月になるとイワナがいなくなると聞いている。なぜ 11 月からイワナがいなくなるのか。また、養殖場を管理しているのは疋田さんで、インストラクターは関与していないようだ。
- 【説明員】 指定管理者である大字部落会の疋田さんが高齢のため、2 年間に渡って後継者育成をしてきたのだが、収入から経費を差し引くと生業として従事するのは難しい。これまでは、ボランティア的に従事していたこともあり、後継者に引き継ぐことができなかった。疋田さんから続けていくことは難しいとも言われている。
- 【委員】 それではパンフレットに載っているイワナの部分は削除するのか。
- 【説明員】 イワナは北月山荘の名物であり、県内外から観光客が訪れており、山菜料理も魅力になっている。イワナ、ヤマメなど新たな担い手を見つけて提供していきたいと考えている。
- 【委員】 農林関係で 800 万円程の国の補助金があるようだが使う予定はないのか。人材育成も考慮して、国の事業も活用して考えてもらえないだろうか。
- 【説明員】 指定管理者との契約が来年 3 月で切れるため、昨日大字部落会と相談の場を設けた。次年度以降の継続について打診したところである。結論は出ていないが、イワナは町の特産品と捉えているし、地域の特産物である。
- 【委員】 11 月から成魚がいなくなるということだが今の状況は。
- 【説明員】 年間約 6,000 匹を出荷している。稚魚を遊佐町の内水面水産センターから購入している。年間を通して同じ程度の大きさ、量の出荷を維持するため、成魚も混ぜて購入している。11 月で成魚がなくなるという話は聞いていない。昨日もそのような話にはならなかった。
- 【委員】 成魚がなくなったら遊佐から購入できるのか。
- 【説明員】 成魚を買ってきてから半月程養殖してから出荷している。
- 【委員】 グリーンツーリズムには物語が大切なのである。「ここで育ったものだからおいしいでしょ？」と言いたい。北月山荘はグリーンツーリズムの拠点となる所であると理解してほしいし、イワナの養殖もがんばってほしい。
- 【委員】 年度の収支状況を見ると、再開当初は大変だったようだが、近年は黒字になっている。人件費が年間 20 万円位だとすると平成 23 年度は赤字なのではないか。酒田のレストランで北月山で育ったイワナを提供しているところがある。養殖場を造る時に、選定委員だったこともあり、清川から上流に向かって調査したことがあり、住まいの近くに地下水が豊富に湧き出るところがあったのだが、最終的に今の場所になった。なぜ今の場所で稚魚から育てられないかという、濁り水が養殖場に入り込むからである。自然のものは育つが、養殖のものは弱い。例えば、仕入れに 100 円かかって半分死ねば 200 円になり採算が合わない。生産は利益が出るような仕組みにしなければならない。卵から育てられないから居ない、という状況になる。根本的に採算が合うようにしなければならない。遊佐や八幡は

地下水を利用している。養殖場が濁った時に地下水を入れるなどして採算が合うように卵から育てられれば良い。地下水を入れられる場所で養殖した方が良いのではないか。そうすれば立谷産となる。鮎釣りに関しても立谷沢川に釣り人が来る。なぜかと言えば、味が全然違うからだそうだ。違うところから持ってきて立谷産というのでは評判が下がってしまう。イワナを見せるのは北月山荘の池などで良いのではないか。ロッジはどのようになっているのか。

- 【説明員】 ロッジは研修施設ということで演奏会や老人クラブで利用している。また、緊急的な宿泊施設にもなっており消防法もクリアしているので利用について検討していきたい。
- 【委員】 ロッジにカラオケがあればという声もあった。
- 【委員】 ロッジで何かするには、食事を運ぶにも手間暇かかることだ。
- 【委員】 「やまぶどう」では、努力して要望に応じている。
- 【委員長】 人件費は月2万円程だが、この程度で良いのか。
- 【説明員】 管理してくださっている匹田さんの楽しみや奉仕的なところがある。毎日業務は発生するが、月5,000円の定額と、手間賃として従事日年間260日につき650円/日、販売匹数1円/匹で算定している。生活費や労働に見合っている金額だとは捉えていない。
- 【委員】 事業内容シートによると平成25年度当初の事業費が12万円となっているが、その他は独立採算なのか。
- 【説明員】 平成13年度から休止していたのだが、地元からの要望によって平成20年度から再開している。施設についても無償で貸している状況である。修繕が必要になった時は、町で対応しているが、基本的には独立採算である。
- 【委員】 総合計画における位置づけが「自然を活かし、自然に安らぐまちづくり」となっているが農林水産業の振興なのではないか。
- 【説明員】 来年度以降、事業内容に合わせて記入する。
- 【委員長】 運営方法によっては、管理を抑えられるのか。
- 【説明員】 平成24年度については、燃料費24万円、餌代21万円、稚魚購入代12万9千円、電気、その他雑費、運搬費となっている。
- 【委員】 最終的に一本化して指定管理者での運営で良いのか。
- 【説明員】 地元の方の養殖場をやりたい、という意向に沿っているものであり、基本的にその意向を尊重したい。イワナが立谷沢の魅力アップにつながっていることも理解しているが、採算的には難しい。北月山荘を含めて指定管理者による運営になれば、北月山荘の仕事の合間に、養殖場をみていただくなどできるのではないか。現在、北月山荘は町直営、淡水魚養殖施設は指定管理での運営となっており、難しいところがある。
- 【委員】 何かを活かすには、何かを捨てなければならない。指定管理者による運営にするならば、ひとつの形として方向性を示さなければならない。でないと、どっちつかずになる。現在管理している人の趣味の範囲で運営するのは難しくなってきた。商工観光課の中に位置づけして、その中でイワナのことを考えていくなどこの会議で方向付けして最終的にまとめなければならない。費用対効果と言われると詰まるところがあるが、両方をトータル的に見るような長い目で方向付けしてはどうか。
- 【委員】 魚は餌をやれば良いというものではない。病気にもなる。勉強して知識を持って従事できる人はそう居ない。手間のかかる仕事である。片手間ではできないことである。逆に分けた方が良いのではないか。トータルで黒字というものではないのではないか。
- 【委員長】 トータルで良いのではないか。収支のことを意識してしまう。賃金のことや趣味的に片手間でやっていることを考慮すると将来性がない。「森森」やケビンなど総合的に考えて行かなければならないのではないか。
- 【委員】 自分が指定管理者になるとすれば、足を引っ張るものは捨てざるを得ない。活かすものを選ばなければならない。

【委員長】 この場で結論を出す訳ではないので、今日出された意見をもとに再度協議することとする。

### ③ 栄寿大学開催事業（社会教育課）

【事務局】 事務事業評価シートに基づき対象事業説明

【説明員】 受講者の減少が課題のひとつであるが、老人クラブそのものが減少している課題が影響している。今年度は町広報にも募集記事を掲載し、誰でも参加できるようにしたが結果として17名の受講生となっている。昨年度は、栄寿大学の40周年記念事業を開催し、170名程が参加した。栄寿大学を卒業した有志が同窓会を組織して単独の自主団体となっており、会費納入の会員は約500名であるが、実際に活動できる会員は200名位と思われる。同窓会として活動している方達も居るため、栄寿大学が無くなると同窓会も無くなってしまいうので、同窓会の存在は無視できない。現在の開催形態としては、リーダー育成を目的として、1年間の受講を経て卒業となっているが、来年度以降については検討中である。

【委員長】 ただ今の説明に対して質問や意見はございませんか。

【委員】 老人クラブの数や人数が多かった時は、老人クラブから栄寿大学に推薦するのも希望者が多く大変だった。老人クラブのあり方そのものも考えて行かなければならないのではないかな。

【委員】 老人クラブの加入年齢は。

【委員】 老人クラブによって違うが、60歳、65歳、70歳などであろう。実際は65歳になっても入らない人が多い。老人クラブの主体は70代だろう。

【委員長】 老人クラブと栄寿大学を直結しなければ参加者の範囲が広がるのではないかな。

【説明員】 老人クラブの町老ク連への集落別加盟率が立川地域17%、余目地域45%である。老人クラブの会員を対象にするという方法は取組み易いということもある。むしろ老人クラブがないところの人への対応が難しい。高齢者も活発に活動しているグループとあまり活動的でないグループに二極化しており、活動的でない人へどのようにアプローチするかが、栄寿大学のことよりも課題である。

【委員】 栄寿大学は何の目的で始めたのか。

【説明員】 老人クラブのリーダー育成が目的で、平成18年当時の余目地区の老人クラブ会員数は約3,000人で、第四学区だけでも約1,200人だった。立川地域では各地区単位で松寿大学を開催しているが、昭和60年代の参加人数が狩川地区約250人、清川地区約100人、立谷沢地区100人弱なので、卒業のない大学でも毎年参加できる状況になっている。立川地域と同じような形態で余目地域で開催することは、対象人数からして難しいということもある。

【委員】 栄寿大学の当初の目的からすれば立川地域の松寿大学とは一緒にできないということが分かった。

【委員長】 栄寿大学の現状からすればリーダー育成にはなっていないのではないかな。内容は魅力的なのに受講生が集まらないということは、老人クラブがネックになっているのではないかな。老人クラブそのものが会員も減少して弱体化してきている。集落の会長を窓口にして参加者を推薦してもらうようにしてはどうか。

【委員】 松寿大学と同じようなことをやっているとなればいけないのではないかな。松寿大学とは違うんだ、次のリーダー格を育てるんだ、となれば良いのではないかな。老人クラブ活動の活発なところ、活発でないところがあるが、活発でないところはリーダーがいない。

【委員】 町民大学には気軽に参加している。気軽さがないと参加できない。

【委員】 農協女性部や若妻会など組織が少なくなってきた。人と関わりたくない人が増えてきて個人重視になっている。組織に縛られたくない人が増えてきた。高齢者にしても自分の行きたいところに行っているし、気軽に行くことができるようになってきている。大震災以降

何かあったら公民館に集まろう、と話し合いで取決めをしている。婦人会もレディスサークルと名称も変わった。色んなところで組織力が無くなってきているので栄寿大学にも参加しなくなってきているのだと思う。

【説明員】 老人クラブの数もここ数年激減してきている。老人クラブに新しい会員が入ってこない。自分の好きなことには積極的だが組織に縛られたくない人が多いのだと思う。老人クラブや婦人会は、ボランティアなどの地域活動をはじめ広範な活動のほか仲間づくりになっているところもある。高齢者の意識も変わってきている。高齢者はこれから増加していくので積極的に活動に参加しない人をどのようにして地域に結びつけていくかが課題だと捉えている。栄寿大学だけが高齢者教育事業ではない。公民館で実施している他の事業への参加者も60歳以上の方が多。何をするとところなのかという目的がはっきりしていないと参加を募るのは難しい。

【委員長】 これまで議論を交わしていただきましたが、栄寿大学の受講生の数に捉われないで今後どうあるべきか、という視点で第二次評価の付帯意見も考慮して、この委員会の意見としてまとめて行きたいと思う。

## 6 その他

次回の日程調整について

次回開催は平成25年10月2日（水）午後6時30分からの開催を予定。案内通知により再度お知らせすることとした。

今後の日程として、第3回：10月16日（水）、第4回：10月30日（水）を開催予定とする。

## 7 閉会

（21：00）